

---

---

## ③底生生物・底質調査（速報）

---

---

### ■調査実施日

- ・潮下帯定量調査：平成26年10月9～11日、21日
- ・潮間帯定量調査：平成26年10月9日
- ・付着生物調査：平成26年10月21日

# ■底生生物・底質調査の結果(速報)

## 潮下帯定量調査 ～底質～



格子内（橋脚による地形変動の予測範囲）と格子外（自然変動範囲）の底質調査の結果を以下に示す。

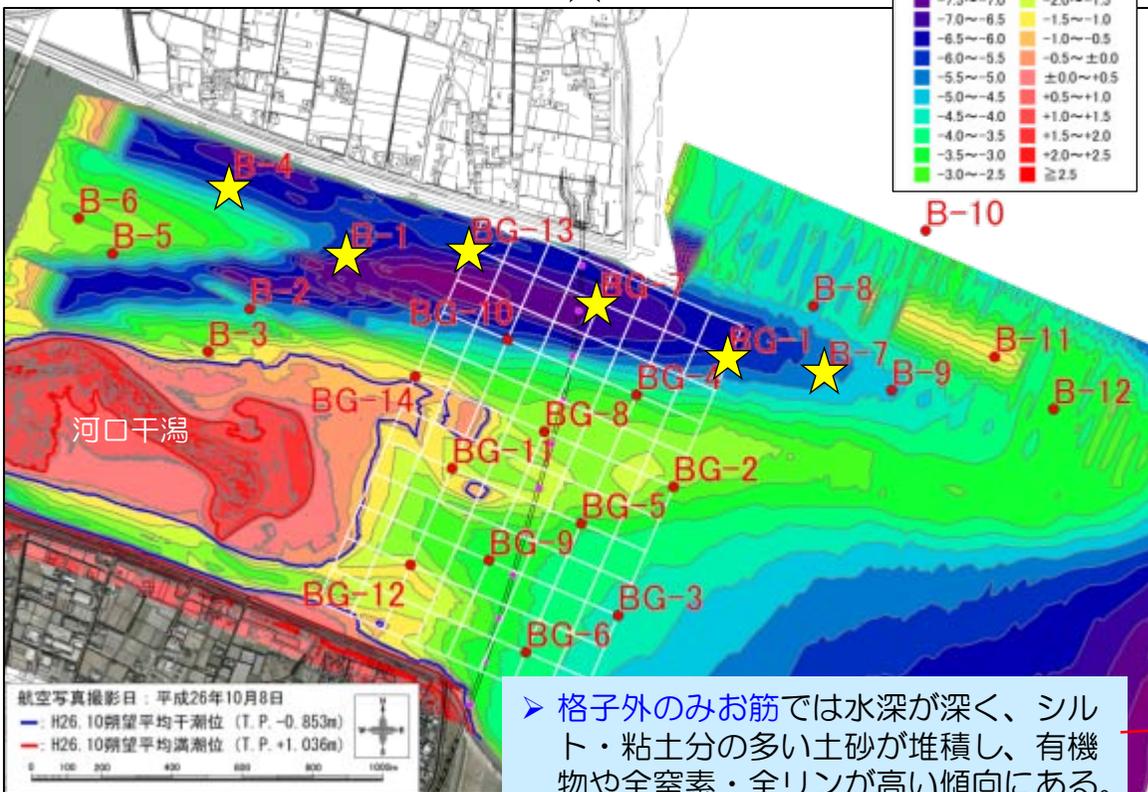
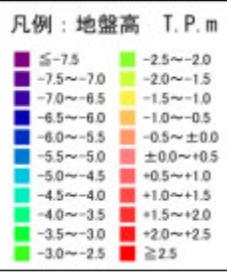
- ①格子内、格子外とも、T.P.-7.0~-1.0m程度の地盤高の範囲で試料を採取をした。
- ②格子内、格子外とも、地盤高に係わらず、全体的に底質が砂質であることが確認された。

※参考：平成25年6月に実施した予備調査の結果では、左岸側みお筋部に泥が堆積していた。

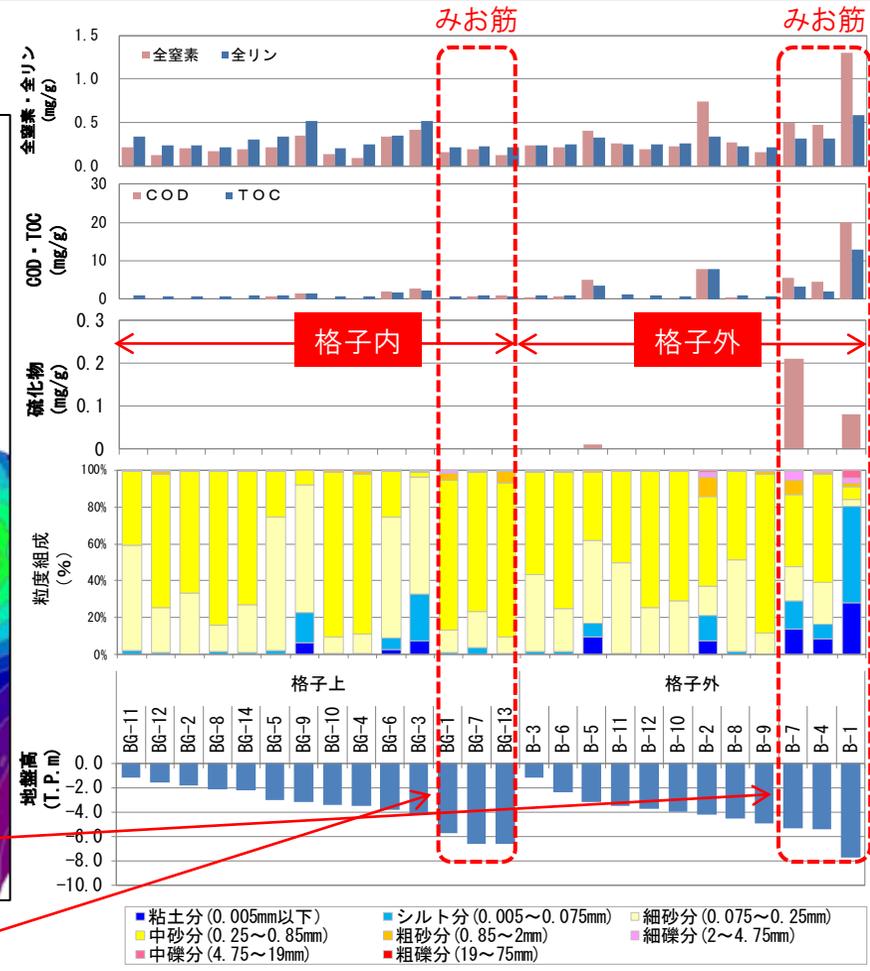
⇒格子内、格子外の現状把握に必要な底質調査が、調査ポイントを含め適切に実施できたものと考えられる。

### ■調査地点

★みお筋の調査地点



航空写真撮影日：平成26年10月8日  
 - H26.10朔望平均干潮位 (T.P. -0.853m)  
 - H26.10朔望平均満潮位 (T.P. +1.036m)



➤ 格子外のみお筋では水深が深く、シルト・粘土分の多い土砂が堆積し、有機物や全窒素・全リンが高い傾向にある。

➤ 格子内のみお筋では、水深が深いもののシルト・粘土分が少なく、有機物や硫化物の値が低かった。



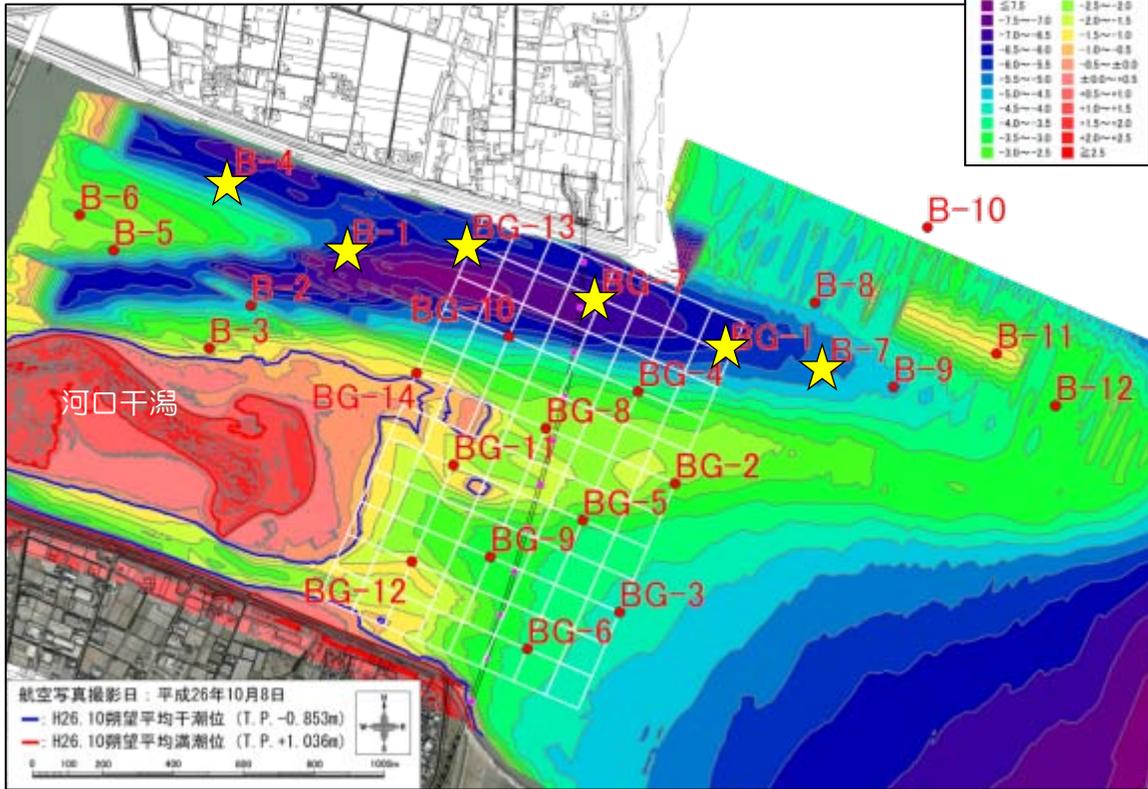
# ■底生生物・底質調査の結果(速報)

## 潮下帯定量調査 ～底生生物①～

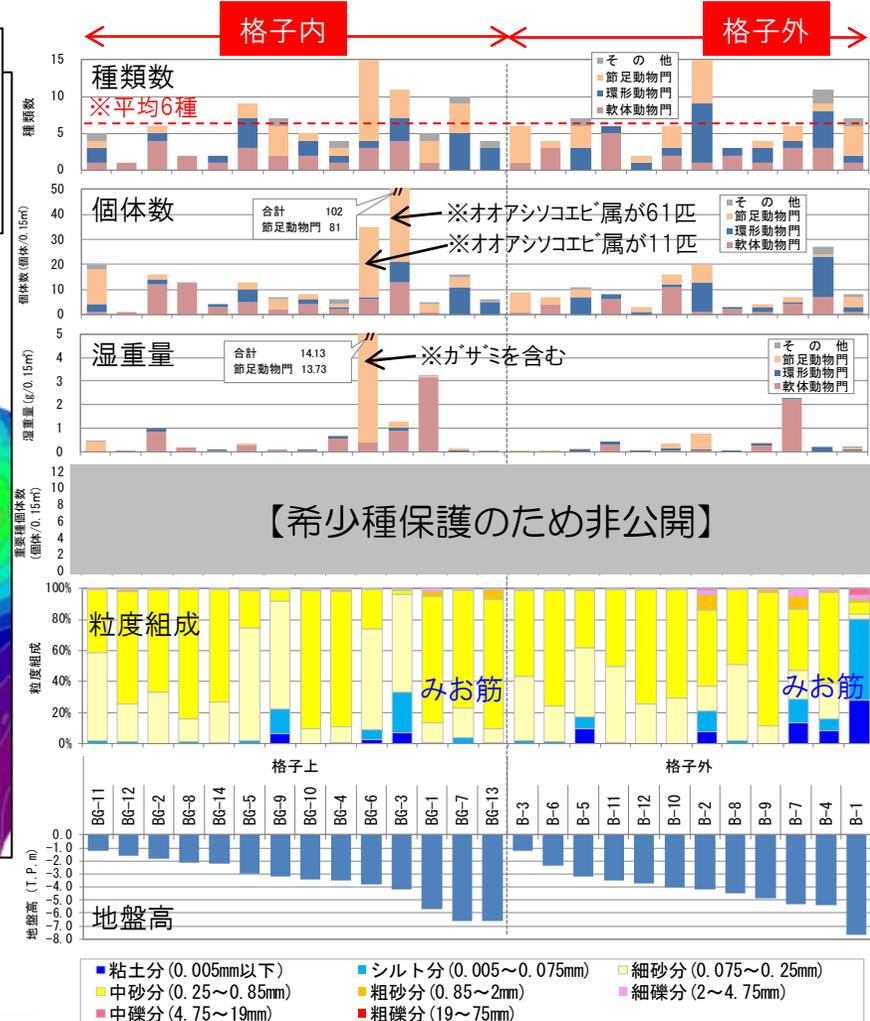


格子内（橋脚による地形変動の予測範囲）と格子外（自然変動範囲）の底生生物調査の結果を以下に示す。  
 ①1地点につき平均6種、最大15種の底生動物を確認し、格子内・外で大きな差は見られなかった。  
 ②格子内に環境省のレッドリスト指定種が確認された。（徳島県のレッドリスト指定種は確認されていない）  
 ⇒全体的に底質環境は砂質であり、砂質に生息する底生動物が多い傾向が確認される。

### ■調査地点と重要種の確認位置 ☆ みお筋の調査地点



※上記の希少種は、いずれも環境省のレッドリストにて準絶滅危惧（NT）に指定。



は格子上のT.P.-2.0m付近～  
 -3.0mに多く見られたが、格子外ではこのよ  
 うな浅場が少なく、は出現し  
 なかった。 【は希少種保護のため非公開】



# ■底生生物・底質調査の結果(速報)

## 潮下帯定量調査 ～底生生物②～



予備調査（平成25年6月）と事前調査（平成26年10月）の確認種の比較による考察を以下に示す。

- ①予備調査では92種、事前調査では71種、全131種の底生動物が確認された。
  - ②この全131種のうち、共通する種は32種であり、異なる種が99種であった。
- ⇒調査時期の違いや出水による影響があるものの、河口域の底生動物の生物相は、攪乱により入替りが激しい可能性があると考えられる。

### ■調査結果

項目	予備調査 (H25.6) ※11地点	事前調査 (H26.10) ※26地点	予備+事前
①確認種数	92種	71種	131種 ※うち共通する種は32種
②格子内でのみ確認した種数	92種	21種	—
③格子外でのみ確認した種数	—	28種	—
④格子内・外の両方で確認した種数	—	22種	—
⑤先行事例で確認された種と同種の種数	62種	52種	89種
⑥格子内のみで確認種されたうち、先行事例で未確認であった種が確認された種数	25種	5種	28種

# ■底生生物・底質調査の結果(速報)

## 潮間帯定量調査 ～底質・底生動物～



河口干潟東部の潮間帯における底質及び底生動物の調査結果を以下に示す。

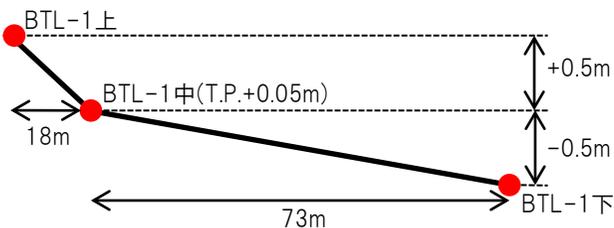
①底質は、砂質であることが確認された。

②底生動物は少なく、環境省・徳島県のレッドリストに登録された重要種は確認されなかった。

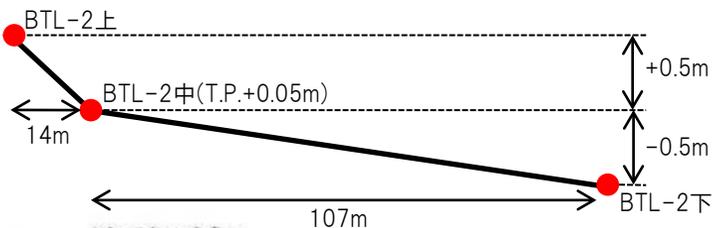
⇒平成26年8月の大出水によって河口干潟が攪乱されたことにより、底生動物が少ないと考えられる。

### ■地点別の確認種一覧

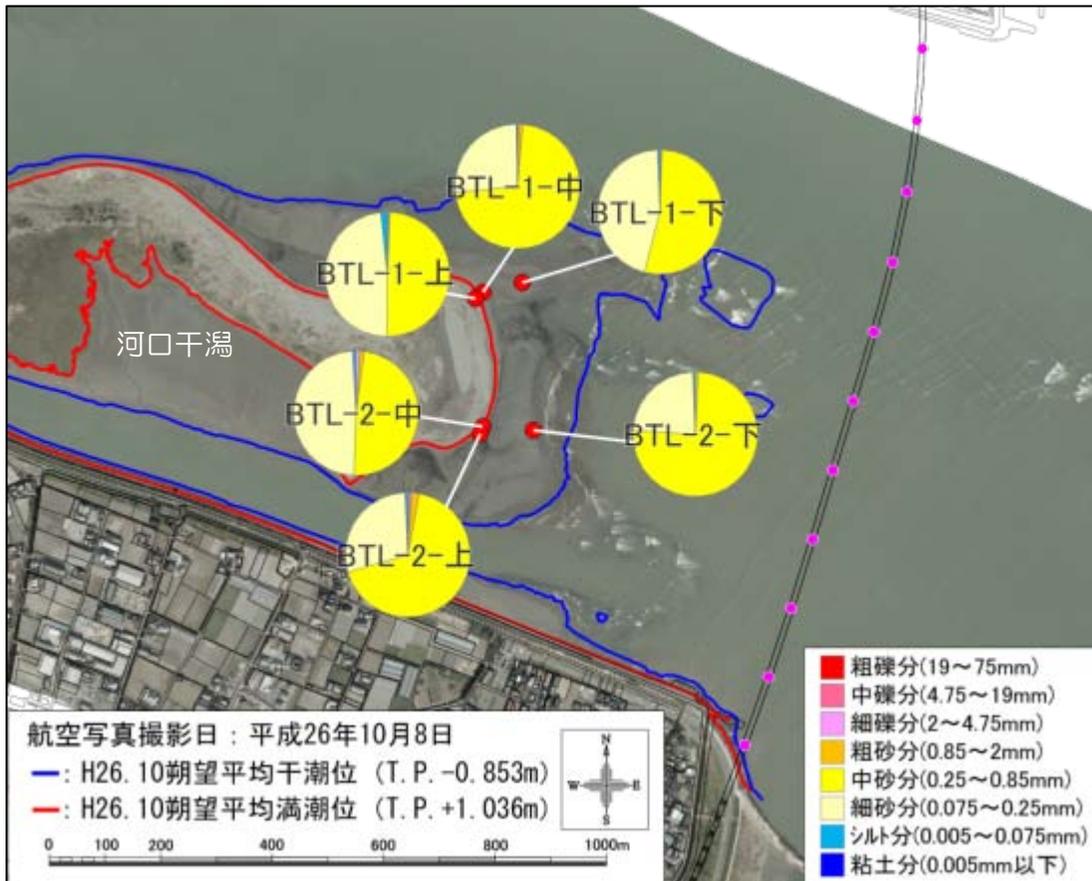
門	綱	目	科	学名	種名	BTL-1上		BTL-1中		BTL-1下	
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
節足動物	軟甲	ワシ'ム	対刺'ム	<i>Excirolana chiltoni</i>	ヒメ'対刺'ム			1	+		
種類数						0		1		0	
合計						0	0.00	1	+	0	0.00



門	綱	目	科	学名	種名	BTL-2上		BTL-2中		BTL-2下	
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
環形動物	ゴ'カイ	イ'ム	ギ'ボ'シ'イ'ム	<i>Scoletoma longifolia</i>	カ'マ'カ'リ'キ'ボ'シ'イ'ム					1	+
		ス'ビ'オ	ス'ビ'オ	<i>Paraprionospio patiens</i>	シ'バ'ハ'ネ'ス'ビ'オ					1	+
				<i>Scolelepis</i> sp.	<i>Scolelepis</i> sp.			1	+		
節足動物	ゴ'カイ	無'柄	ワ'ク'ホ'	<i>Balanus trigonus</i>	キ'ナ'カ'ワ'ク'ホ'			3	0.04		
		軟甲	ワシ'ム	対刺'ム	<i>Excirolana chiltoni</i>	ヒメ'対刺'ム	11	0.13			
種類数						1		2		2	
合計						11	0.13	4	0.04	2	+



### ■地点別の粒度組成



※確認種一覧は、補足資料として添付している。

# ■底生生物・底質調査の結果(速報)

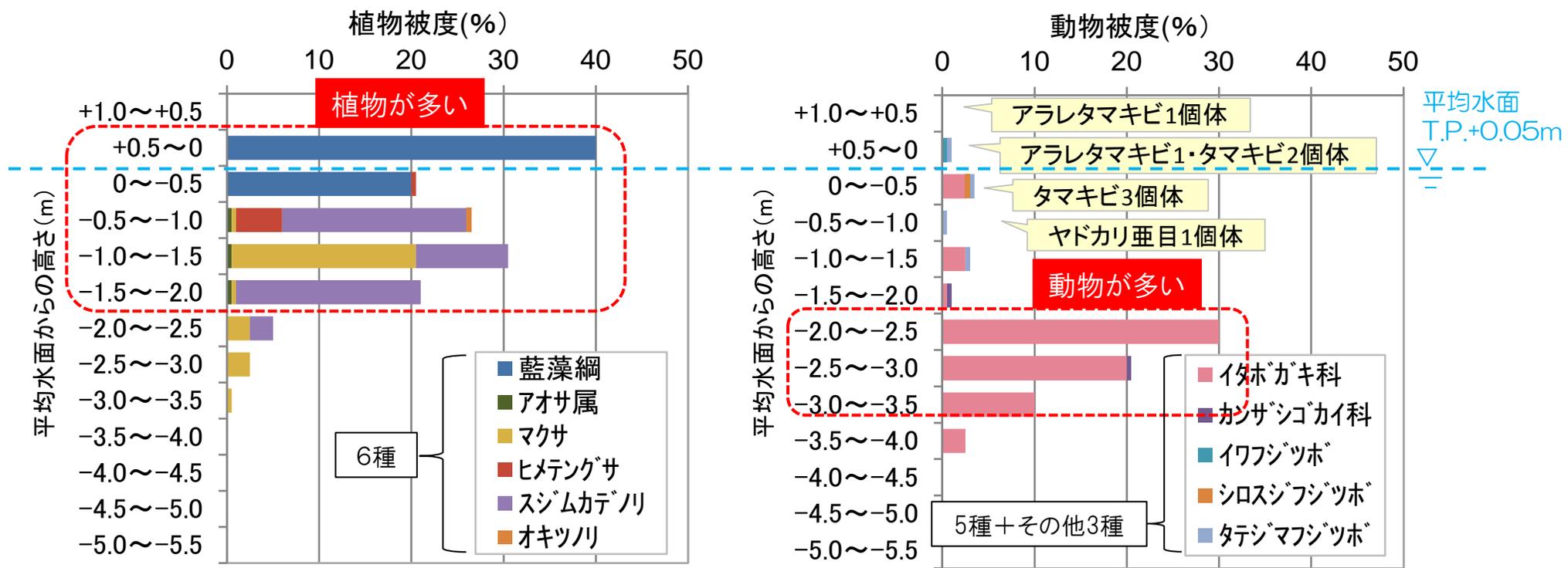
## 附着生物調査(消波ブロック部) ～目視観測～



吉野川渡河部左岸周辺の消波ブロック上を目視観測(ベルトトランセクト法)した結果を以下に示す。

- ① 14種の底生生物(植物6種、動物8種)を確認した。
  - ② 平均水面付近～T.P.-2.0m程度までは植物の被度が高く、2m以深では動物の被度が高かった。
- ※参考：環境省・徳島県のレッドリストに登録された重要種は確認されなかった。

### ■主な底生生物の鉛直分布(目視観測)



植物は、平均水面付近では藍藻類、平均水面以深ではスジムカデノリやマクサが多かった。  
動物は、-0.5m以浅ではタマキビ類が出現し、平均水面以深ではイタボガキ科(マガキ等)が主であった。



※確認種一覧は、補足資料として添付している。  
ここでは主な種のみを示している。

# ■底生生物・底質調査の結果(速報)

## 附着生物調査(消波ブロック部) ～坪刈りの調査結果～

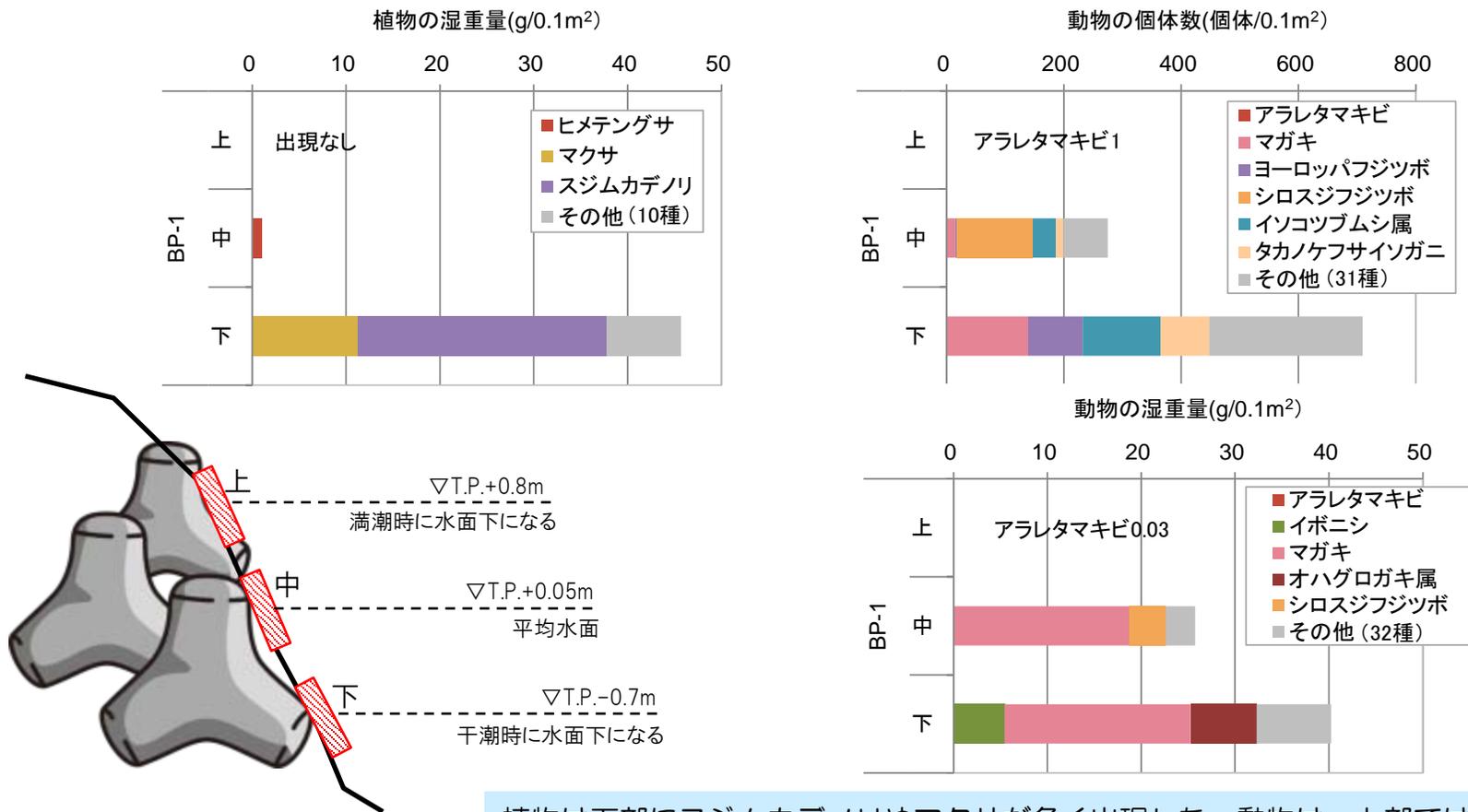


吉野川渡河部周辺の消波ブロック上を坪刈り調査した結果を以下に示す。

①50種の底生生物(植物13種、動物37種)を確認した。

※参考：環境省・徳島県のレッドリストに登録された重要種は確認されなかった。

### ■主な底生生物の鉛直分布(坪刈り)



植物は下部にスジムカデノリやマクサが多く出現した。動物は、上部ではアラレタマキビが1個体出現したのみであり、中部・下部ではマガキやフジツボ類が主に出現した。



※確認種一覧は、補足資料として添付している。  
ここでは主な種のみを示している。